

第95回(平成27年度 第1次)新技術開発助成の募集

(公財)新技術開発財団

当財団の新技術開発援助は「独創的な新技術の実用化」をねらいとしており、基本原理の確認が終了(開発段階終了)した後の実用化を目的とした開発試作を対象にしています。

■企業の要件

(1)資本金3億円以下または従業員300人以下の自ら技術開発する会社 (2)大企業、上場企業、及びそれらの関係会社でないこと

■開発技術の要件

(1)独創的な国産技術であること (2)実用化を目的とした開発試作であること (3)実用化の見込みがある技術であること

(4)開発予定期間が原則として1年以内であること (ほか)

■助成金額: 試作費合計額の2/3以下で2,000万円を限度

■受付期間: 平成27年4月1日～4月20日(締切日消印有効)

■問合せ先: (公財)新技術開発財団 TEL:03-3775-2021 FAX:03-3775-2020 URL:<http://www.sgkz.or.jp>

平成27年度「新エネルギーベンチャー技術革新事業」に係る公募

(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

再生可能エネルギー分野の重要性に着目し、中小企業等(ベンチャーを含む)が保有している潜在的技術シーズを基にした技術開を公募により実施するものです。本事業は、技術開発のステップによって、3つのフェーズ(フェーズA、フェーズB、フェーズC)を設けます。平成27年度公募では、各フェーズへの申請を募集します。

■申請者の要件: 中小企業等であること。複数機関で申請する場合は、代表となる機関を申請者とし申請者以外の機関を連名申請者とする。フェーズAについては、複数機関での申請を前提としており連名申請者の一つは大学であること。

■助成金額(事業期間): <フェーズA> フィージビリティ・スタディ 1テーマあたり1千万円以内(1年間以内)

<フェーズB> 基盤研究 1テーマあたり5千万円以内(1年間以内)

<フェーズC> 実用化研究開発 1テーマあたり5千万円以内(1年間程度)

■募集する技術分野: エネルギー基本計画、新成長戦略等に示される下記の分野とする。
太陽光発電、風力発電、水力発電、地熱発電、バイオマス利用、太陽熱利用、その他未利用エネルギー分野。また、再生可能エネルギーの普及、エネルギー源の多様化に資する新規技術(燃料電池、蓄電池、エネルギーマネジメントシステム等)

■応募期間: 平成27年3月16日～4月17日

■問合せ先: (独)新エネルギー・産業技術総合開発機構イノベーション推進部 TEL:044-520-5171 FAX:044-520-5178

URL:http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100072.html

何時も新技術情報クラブをご支援いただきまして、誠にありがとうございます。昨年末に地域調査を行いまして、山梨県の地域企業様からの学生希望と就職実態との関連を調査致しましたところ、ソフトウェア系は地元就職が活発ですが、地域からのご希望数が多い「サービス産業」「販売業」にはあまりお応えできていない様子です。これは大学の学部構造にもかかわる点と推定しております。しかしながら一方では、学生の地域定着についても重要なことかと理解しておりまして、来年度はさらに調査を進めるとともに、少しずつながら産学連携活動に学生の連携も加えていけたらと考えております。一般に、卒業生がすでに入社されている企業様への志向は強い傾向があります。このことは、学生がまだ地域企業様の内容を存じ上げていないことも要因かと思えます。そこで、学生と共に研究者を囲む会が出来るとういことと考えております。「こんな企画をしてほしい」というのがありましたら、ぜひお聞かせください。では、来年度もぜひご支援いただけますようお願いします。(記:還田統括コーディネータ)

山梨大学 個別技術相談会

山梨大学研究者が、企業が抱えている技術的な課題・問題の

相談に応じます!! お気軽にご相談ください。【参加無料】

日時:平成27年4月23日(木)13:00～17:00

場所:山梨中央銀行 八王子支店 2F

(東京都八王子市千人町2-4-8)



【発行 2015年3月18日】

国立大学法人 山梨大学

社会連携・知財管理センター

新技術情報クラブ事務局

〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37

TEL:055-220-8754 FAX:055-220-8757

E-mail:renkei-as@yamanashi.ac.jp

URL:<http://sangaku.yamanashi.ac.jp/>

COC事業キックオフ&シンポジウムを開催

1月26日(月)、アーバンヴィラ古木屋ホテル(甲府市)において、「山梨ブランドの食と美しい里づくりに向けた実践的人材の育成」をテーマとする(平成26年度「大学COC事業」)のキックオフ&シンポジウムを開催し、自治体・企業関係者や市民など180名を超える参加者がありました。開会にあたり、前田秀一郎学長より「山梨県の基幹産業の一つである農業分野の衰退に歯止めをかけ、自然と一体となった新たな里づくりを行うという課題解決に関係自治体などと連携して取組む」と挨拶の後、佐野 太文科省大臣官房審議官、横内正明山梨県知事、宮島雅展甲府市長、金丸康信甲府商工会議所会頭、進藤 中山梨中央銀行頭取から、COC事業を通じた山



COC事業キックオフの風景

梨大学の地域貢献に対する期待が述べられました。その後、基調講演、パネルディスカッションが行われました。今回のキックオフ&シンポジウムは、地域の諸課題の解決に関わる本学のCOC事業を周知し、関係諸機関との連携を一層密にするものとなりました。

特別講演会「ノーベル賞受賞までの舞台裏-青色LED 実用化プロジェクトの仕掛け人が語る-」を開催

1月21日(水)、甲府キャンパスにおいて、独立行政法人科学技術振興機構(JST)研究プロジェクト推進部の石田秋生上席主任調査員をお招きし、特別講演会「ノーベル賞受賞までの舞台裏-青色LED 実用化プロジェクトの仕掛け人が語る-」を開催しました。石田氏は「高輝度で省電力の白色光源を可能にした青色発光ダイオードの発明」でノーベル物理学賞を受賞された赤崎 勇名城大学終身教授の研究成果に注目し、JST職員として産学連携事業を働き



講演風景

石田上席主任調査員

かけ、「伝説の目利き」(毎日新聞)、「プロジェクトの仕掛け人」などとしてマスコミでも話題になっています。

本講演会では、青色発光ダイオード(青色LED)のどのような点に可能性を感じ、どのように支援したのか、赤崎 勇教授・天野 浩教授・中村 修二教授の研究に対する姿勢の相違点など青色LEDに関するものだけでなく、他に支援してきたプロジェクトとその注目点、今後注目されそうなものなどについてお話しいただき、これから研究に関わっていく学生や一般の方々のみならず、教職員にとっても貴重な機会となりました。

山梨大学客員社会連携コーディネータ委嘱式および研修を実施

平成27年3月6日(金)、甲府キャンパスにおいて、山梨大学客員社会連携コーディネータ研修を実施し、13機関から263名に平成27年度客員社会連携コーディネータを委嘱しました。また、平成26年度に顕著な活動をしたとして客員社会連携コーディネータ4名が学長より表彰され、日ごろの客員社会連携コーディネータ活動への敬意を表するとともに、今後もますますの協力をお願いしました。山梨大学客員社会連携コーディネータ制度は、山梨大学と自治体・諸団体ならびに金融機関等のネットワークを活用して



客員社会連携コーディネータの集合写真

大学の研究成果を地域で有効活用し企業ニーズへ対応するとともに、社会連携活動の推進に携わる人材の育成を図り更なる地域の活性化に資することを目的とし、平成18年度に創設しました。当初8名からスタートした客員社会連携コーディネータですが、年々その人数を増し、その活動も自治体や金融機関等の特徴を活かし、工夫を凝らしたものとなっています。今後も、産学官連携のネットワークの更なる強化を図り、大学の知的財産を活かし、より一層の地域貢献を図ることとしています。

山梨大学特許最新情報

特許最新情報についてはクラブ会員のみへの提供となっておりますので、
本掲載では非公開とさせていただきます。

イベント活動報告

「個別技術相談会」を開催しました！！

1月21日（水）に第20回個別技術相談会を開催いたしました。今回は㈱山梨中央銀行・山梨中銀経営コンサルティング㈱・八王子商工会議所より協力を得て、キャンパス・イノベーションセンター東京にて開催し、本学研究者と社会連携コーディネータによる面談を行いました。時折みぞれが舞う寒い1日となりましたが、所定の50分では時間が足りず、面談時間後も控え室にて研究者に相談している様子が見受けられました。



技術相談会での面談風景

「農商工連携マッチングフェア」に出展しました！！

山梨県商工会連合会・県下商工会が主催する「平成26年度農商工連携マッチングフェア」が1月28日（水）甲府富士屋ホテルで開催され、本学の技術シーズや社会連携活動を紹介しました。本フェアは、中小企業者や農林漁業者等が互いの経営資源や地域資源を活用して開発した商品等の商談や販路開拓、取り組みの紹介を行うもので、本年は77社が出展し多くの方々に賑わいました。



本学ブースの風景

「テクノプラザおかや ものづくりフェア2015」に出展しました！！

「テクノプラザおかやものづくりフェア2015」が2月6-7日に岡谷市の2会場で開催され、本学はラオカヤ2F特設会場に出展し研究交流や成果をポスターで紹介しました。本フェアは、岡谷市がスマートデバイスの供給基地としての工業集積を活かし、ものづくり企業の製品を一堂に集めて情報を発信するもので、ものづくりの素晴らしさを多くの方々に知ってもらうことを目的としています。今回は、161社の出展、延べ5,110人もの来場で盛大なものとなりました。



本学ブース(左)とチラシを取る来場者(右)

「FC EXPO2015第11回国際水素・燃料電池展」に出展しました！！

FC EXPO2015第11回国際水素・燃料電池展が2月25(水)-27(金)に東京ビッグサイトにて開催され、本学は山梨県ブースに他の4社と共に出了展しました。本展は水素・燃料電池の研究開発、製造に必要なあらゆる技術、部品・材料、装置、および燃料電池システムが一堂に出展する世界最大級の国際商談会で、本学からは、燃料電池ナノ材料研究センターの「固体高分子形燃料電池」「水素・精製触媒」、クリーンエネルギー研究センターの「新規燃料電池」「水素の貯蔵」「廃熱の利用」「太陽光から水素獲得」の研究成果を展示し、国内外からの多くの来場者がありました。



賑わう山梨ブース(左)と本学スペース(右)

コーディネーターによる【研究者紹介】

工学部 機械工学科 准教授 青柳 潤一郎 (あおやぎ じゅんいちろう)

今回は山梨大学では珍しい、人工衛星などの推進エンジン研究者をご紹介します。青柳准教授は首都大学東京で宇宙システム工学を研究され2014年4月に本学に移られてきました。JAXAが打ち上げた皆様ご存じの「はやぶさ2」での宇宙空間推進は、「イオンエンジン」と呼ばれるイオンを排出した反動で進むエンジンです。これはイオン源となるガスの容器や流れ制御のためのバルブ類など大掛かりな装置になるためコンパクトにしにくいという難点を有しております。これに対して燃料をガスではなく、固体から放電と電磁場を利用して直接昇華させ。これを排気して推進するPTT（パルスプラズマスラスト）は、コンパクトにできる長所を持ちます。これを青柳准教授は研究されておりまして、PTTは推進力が小さい反面、安価でコンパクトな推進エンジンとして利用できるため、将来の超小型衛星では非常に使いやすいと考えられています。



ところで、他県では地域の企業が団体で衛星を作り、JAXAに依頼して打ち上げてもらうというプロジェクトがいくつか報じられています。このことは単なる力試しだけではなく、技術力と知名度を向上させることで大手企業に互して受注を増やしていこうという心と聞きました。如何でしょう、もし山梨地域でも思い立った方々におかれましては、青柳准教授から話を聞いてみませんか。（記：還田統括コーディネータ）

産学官連携TOPICS

アカデミックサロン（第5回）を開催しました！！

第5回アカデミックサロンを平成27年2月13日（金）午後4時から甲府駅北口「CAFE 風土」にて開催しました。今回は初めて生命環境学部系の話題とし、地域食物科学科の山下先生から「山梨大学附属農場におけるブドウ研究について」、中田先生から「有害生物を排除する農業から、有用生物を生かす農業へ」のプレゼンテーションを戴きました。県庁からも農政部を中心に5人の出席があり、率直で活発な意見交換が行われました。午後6時以降は第2部として、お弁当と地元ワインを賞味しながらの打ち解けたひと時となりました。これを機に産学官の交流の輪が大きく広がって行って欲しいと思います。



中田先生(左)と山下先生(右)

「クラブ会員企業様へのご訪問」を致しました！！

昨年12月-本年2月に「クラブ会員企業様へのご訪問」として、ご希望のあった5社1団体に伺わせて戴きました。お忙しい中でのご対応を有難うございました。事前アンケートによる訪問時のご要望としては、仕事をテーマにした1-2時間のフリートークがほとんどでした。実際に企業様に出向きその事務所や現場で話をするにより、企業・団体が目指す夢・抱える課題を同じ目線や感覚で聞き語ることが出来たかと思っております。技術的課題については、今後も、技術相談として引き続き対応して参ります。



R.D.M 舟久保社長(左)と本学CD(中・右)

訪問の後はいつも励まされた様な気持ちになりました。私共のエネルギーにもなります。

「本クラブ 2014年度交流会」を開催致しました！！

3月12日（木）15：00に、本クラブの2014年度交流会を山梨大学にて開催し、9社1団体から13人が出席されました。交流会では、田中理事のご挨拶およびクラブ活動の2014年度実績と今後の活動についての報告、その後、最近の研究・技術紹介として、工学部機械工学科野田准教授より「社会や人に役立つ力学解析・制御技術の研究開発」、本機構コーディネータ等より「医療関連ものづくり交流会のご紹介」のプレゼン2件を行い、さらに工学部ものづくり教育実践センターの見学を行いました。その後、会場を大学食堂に移し、会員6人大学6人による懇親会を行い、和やかな雰囲気での談笑をしました。来年度は2回の交流会を計画しております。尚、来年度の会員継続については、別途、通知させていただきますので、宜しくお願い致します。



交流会の風景